

第4回 地区別懇談会【③麓・老神地区】

日時：令和3年7月26日（月）18:00～

場所：人吉東小学校体育館

次第

1. 開会挨拶

2. 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

(1) 地区別懇談会の振り返りと情報提供【資料1】 【資料2】

(2) 懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（更新案）について

①復興まちづくりの方向とイメージ案（前回意見を踏まえた更新案）【資料3】

②主な取組み案と参考事例、対象地域の現況など【資料4】

3. 地区ごとの話し合い

(1) 復興まちづくりの具体的なイメージや手法案について

○取組み方針、具体的取組み、イメージの更新案について、問題はないか？

○地区全体の活性化に向けて重点的に協働して取組むべき施策やアイデアは？

○有効と考える参考事例は？

(2) 今後の進め方、次回日程の調整、連絡体制の確認について

4. 全体共有

5. その他

6. 閉会挨拶

【資料】

- ・資料1：地区別懇談会だより第2号
- ・資料2：地区別懇談会だより市全体版（地区別懇談会の取組状況のお知らせ）
- ・資料3：復興まちづくりの方向とイメージ（更新案）
- ・資料4：主な取組み案と参考事例

□は方向案の柱、赤字は事務局側での記載事項です。 黄色網掛け箇所が第3回地区別懇談会における参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

| 意見集約のキーワード (復興計画の3つの柱) | 地区の主な課題 (地区の復興まちづくりに向けた主な課題) | 取組み方針 (課題解決のための取組み方針の柱) | 具体的取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要 |
|---|---|--|--|
| ①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】 | <input type="checkbox"/> 浸水した家屋の片付け（公費解体） ・公費解体の順番待ちの状況。 ・地区内で被害の大きかった新町の今後の心配。 <input type="checkbox"/> 地域の高齢化、及び空洞化 ・高齢者が増えて、住民同士の付き合いが減少。 ・若い世代の住民が減少（南町）。 ・空き家の増加。 ・田町に旧商店街の古い町並みが残っている。 | <input type="checkbox"/> コミュニティの再生 ・若い世代をはじめとした新住民の受け入れ。 | <input type="checkbox"/> 市街地の衰退の分析 ・市街地に住民が住まなくなった理由の分析。 ・駐車場が増えた理由の分析。 <input type="checkbox"/> コミュニティの再生 ・古民家をリノベーションして、若い世代の入居・転入の促進。 ・南寺町・新町の統合。 ・麓町・南寺町の交流促進。 ・マンション居住者の共益費に区費を含める。 |
| ②力強い地域経済の再生 【生業再建】 | <input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化 ・城址、人吉城歴史館の使い勝手が悪い。 ・人吉の歴史を市民・観光客が学ぶ場所が必要。 | <input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化 ・城址公園、麓地区のイベント会場としての活用。 ・歴史資料館収蔵品の浸からない場所への移動・保存。 | <input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化 ・歴史資料館をガイダンスセンターとして再利用。 ・歴史資料館の入場料無料化（市民のみ対象/歴史を知る機会の増加）。 |
| ③災害に負けないまちづくり 【避難対策】 | <input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保 ・指定避難所の保健センターまでの道が狭く、胸川沿いに立地しているため危険。 ・胸川東側の地区は橋を渡るのが危険。東側で避難所の確保が必要。 ・新町町内会館が浸水した。今後避難所として利用できない。 <input type="checkbox"/> 避難誘導體制の確保 ・発災状況の確認が遅れて逃げ遅れが発生。 ・町内会長だけが住民の避難誘導の役割を担うのは負担が大きい。 ・防災に関わる町内会長の業務引継ぎが不十分。 ・高齢者の逃げる手段、見守りの体制が十分でない。 | <input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保 ・胸川西岸は第一中学校を避難所として利用するため、今後協定等を検討（将来的に新庁舎、医療センターや国の出先機関への垂直避難）。 ・胸川東側は相良神社、林鹿寺、東林寺を避難所として利用するため、今後協定等を検討。 ※避難ルートの拡幅等はない ・麓地区の公民館設置の検討（管理等が大変なので設置しない方向）。 <input type="checkbox"/> 避難誘導體制の確保 ・町会長の負担を軽減・分散する必要がある。※町会長が被災者になる場合も想定。 ・町会長の引継ぎ時に、消防団が同席する等して防災の業務引継ぎを強化。 ・高齢者・要支援者の連絡網・マップの作成。 ・市の出前講座を活用した防災への認識・体制の強化。 | <input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保・確認 ・【胸川西岸】第一中学校を利用。医療センターや国の出先機関との垂直避難の協定締結。 ・【胸川東側】相良神社、林鹿寺、東林寺の自主避難所として協定締結。 ※林鹿寺は麓町・田町の自主避難所に指定済み ・寺社の避難所利用に関わる協定締結に向けた市の支援。 ・駐車場の整備・確保。 <input type="checkbox"/> 地域性を踏まえた防災マップの作成 ・防災まち歩きによる、危険個所の確認。及び各町内の詳細な防災マップの作成。 |
| 【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】 | <input type="checkbox"/> 本川と支川の合流部の氾濫 ・胸川から本川に流れ込みづらい。バックウォーターの発生。 | <input type="checkbox"/> 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 | <input type="checkbox"/> 防災意識の醸成、体制の強化 ・自主防災組織の立ち上げ、地区防災計画の策定（役割の分散化 他） ・実践的な避難訓練の実施。 ・災害時の女性部の活動強化。 ・災害時の住民間の支援体制の構築。 <input type="checkbox"/> 情報発信機能の強化 ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。 ・支流（胸川 他）の出水状況をきめ細かく情報提供する機能の強化。 <input type="checkbox"/> 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等。 |

人吉市の復興まちづくり

地区別懇談会の取組状況のお知らせ

2021.
7.1
発行

地区別懇談会の開催状況と今後の予定について

- ・ 甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ**、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。
- ・ 地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。



● **重点地区** 大柿地区、中神地区、温泉下林地区、薩摩瀬地区、左岸地区、中心市街地、青井地区、麓・老神地区

視点1
住宅被害が甚大で、現在地での住宅再建または移転の方向付けが必要な地区

視点2
避難のありかたを見直すことが必要な地区

視点3
国・県の流域治水対策が示され、市の相談・支援が必要な地区

● **検討状況**

校別座談会

4月
地区別懇談会
(課題の確認～
取組み方針の検討)

7月
地区別懇談会
(取組内容の具体化)

地区別懇談会
(復興まちづくり計画
の取りまとめ)

9月～
計画策定
計画の推進

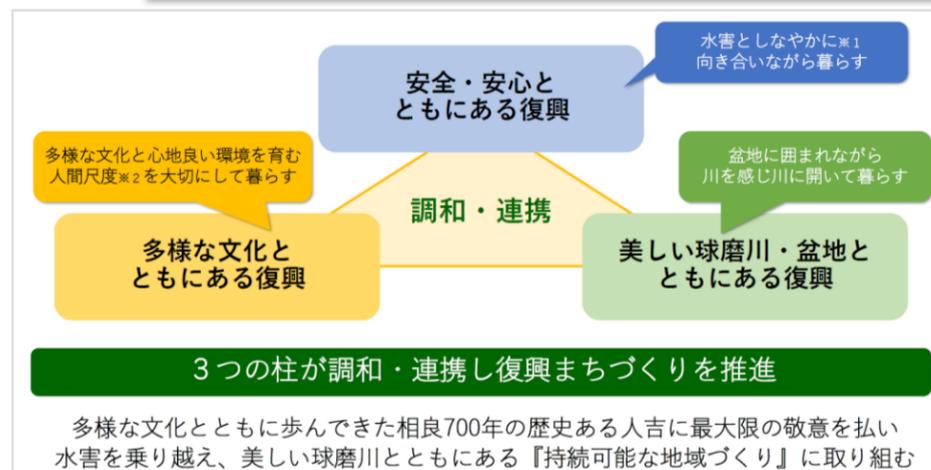
- ・ 8月頃に、各地区の検討状況を共有する**中間報告会**を開催予定です。
- ・ 重点地区以外においても、8月を目途に**校別座談会**を開催予定です。

復興まちづくり計画の策定に向けて

● **復興まちづくり計画とは**

- ・ 復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・ 特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・ **住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）**に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・ 計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間です。（令和3年度からの一部実施も想定）

現在、懇談会では、取組の方針と具体の取組みについて検討を進めています。
検討中の主な取組の一部を、中面及び裏面でご紹介しています。



左図：
人吉市まちなかグランドデザインの方向（案）（中心市街地第3回懇談会資料より）

懇談会は、対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます



各地区の懇談会での主なトピック

| | | |
|--------|------------------------------------|---|
| 中心市街地 | 鶴田町、鍛冶屋町、七屋町、北上新町、南新町、下新町、大工町、二日町、 | <p>中心市街地は、人吉市の中心地として、賑わい・活力を形成するため、くらしの再生や避難対策とともに、各町の特性を活かしたまちづくりの方針や具体の整備手法を中心に検討を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地区内の主要道路・避難路の整備、垂直避難ができる避難場所・車での避難場所の確保 □ 自助共助の避難体制の構築、来街者・観光客の避難誘導対策、実践的な避難訓練の実施 □ 避難所機能の充実、まちなかの防災・避難支援スペースの確保 □ 中心市街地のグランドデザインの作成～面的なまちづくりの実施、歴史的建物や路地空間等を活かした街並み形成 □ 球磨川を活かしたまちづくり（親水空間の整備、発船場～城見庭園の拠点化） |
| 青井地区 | 駒井町、上中町、下青井町、城本町、 | <p>青井地区は、中心地の一翼として、くらしの再建や避難対策とともに、青井阿蘇神社を中心とした歴史文化を活かした賑わい形成の方針を中心に検討を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地区の安全性向上に資する道路の整備(北部高台避難場所への避難路の整備、国道の整備) □ 垂直避難や車移動に留意した避難場所の確保（避難場所の浸水対策、避難場所の協定） □ 安全性を高める建て方の誘導、集会所等の再建、新規店舗の誘導、小河川氾濫や急傾斜地の対策 □ 青井阿蘇神社周辺の賑わい形成(公園や集客空間の整備、門前町としての整備、水辺の活用) □ 良好な市街地環境形成(面的まちづくり手法等を活用した浸水対策と道路・公園・広場等の充実) □ 国道整備と連携した活気ある沿道市街地の形成(沿道への店舗誘導、歩行環境の充実) |
| 麓・老神地区 | 南寺町、新町、麓町、老神町、田町、 | <p>麓・老神地区は、球磨川や胸川による浸水の危険性に備えて、安全な避難所・避難場所の確保や人吉城址周辺の活性化等に向けた取組を中心に検討を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 市街地の衰退の分析 □ 人吉城址周辺の活性化 □ 地域性を踏まえた防災マップの作成 □ 情報発信機能の強化 □ コミュニティの再生 □ 安全な避難場所・避難ルート確保・確認 □ 防災意識の醸成、体制の強化 |

◇お問い合わせ◇ 人吉市役所 復興局 復興支援課

〒868-8601 熊本県人吉市下城本町1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

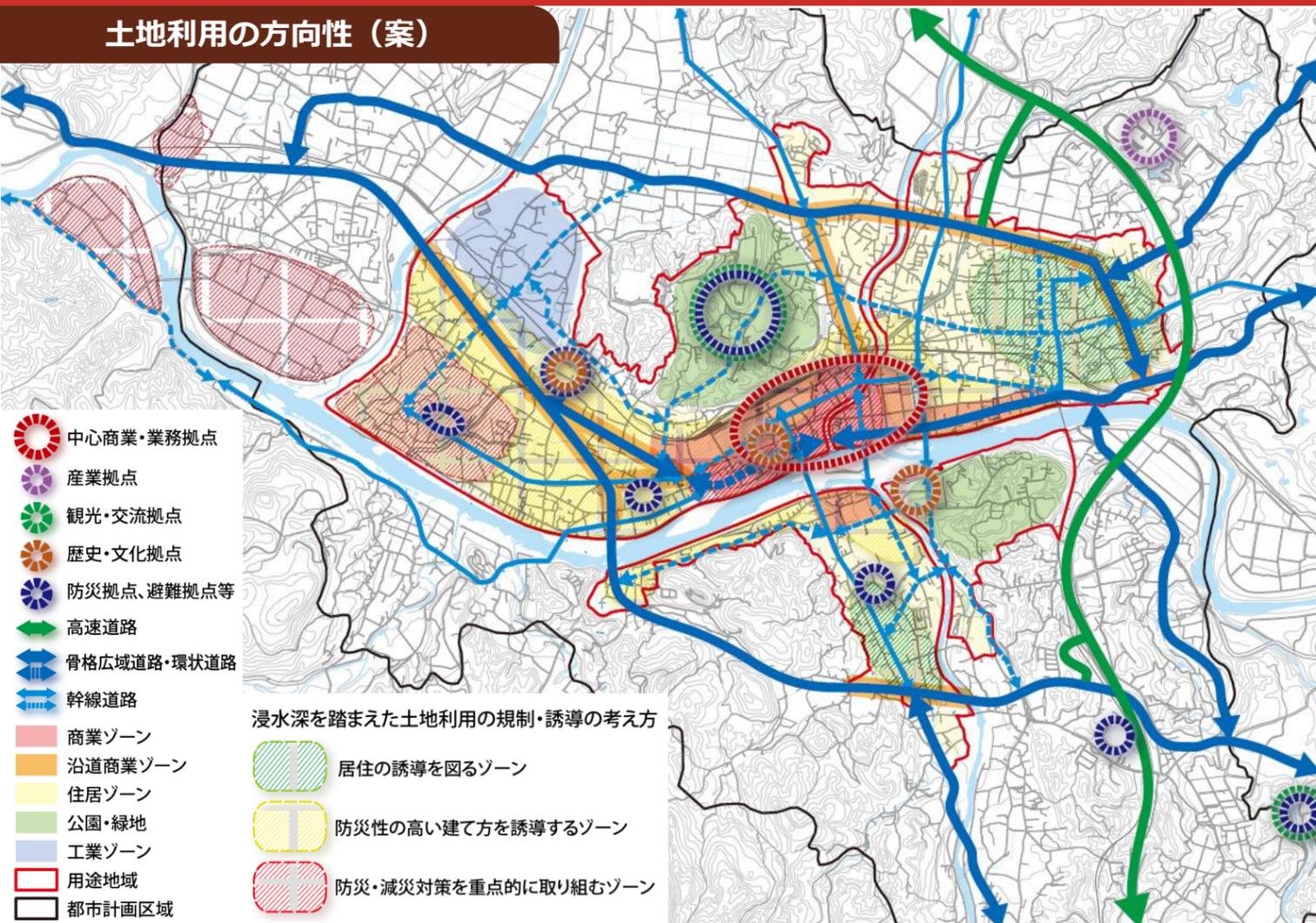
地区別懇談会の開催のお知らせは、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧にならない方はお問い合わせください。

各地区の復興まちづくりの取組方針（案）



「地区別懇談会」で検討中の内容をお知らせします。
ご関心のある方は、ぜひ次回の懇談会にご参加ください！

土地利用の方向性（案）



各地区の復興まちづくりの取組方針（案）

①被災者のくらし再建とコミュニティの再生
【住まい再建】 【コミュニティ再生】

②力強い地域経済の再生
【生業再建】

③災害に負けないまちづくり
【避難対策】

【復興まちづくり】

【治水・土砂災害対策】

※各地区の復興まちづくりの取組方針は、以下の項目を基本としつつ、地区の特性・課題に応じて、主な取組のメニューを選択し、検討を進めています。

- 住まい再建における安全性の向上
- コミュニティの再生
- 集会所等のコミュニティ拠点の再建
- まちなかの生業再生に向けた環境づくり
- 観光資源である”温泉”を活かしたまちづくり
- 人吉城址周辺の活性化
- 農地の再生による生業の再建
- 安全な避難路の整備
- 緊急避難場所の整備
- 複数の避難場所の確保
- 「安全な避難」のための「平常時の準備」
- 適切な情報発信の実施
- 地域性を踏まえた自助共助の避難誘導體制の構築
- 避難所の見直し
- 避難所の機能拡充
- 避難所・自主避難所の運営方法の検討
- 地域特性を活かした魅力ある復興まちづくりの推進
- 一体的な復興まちづくり方針の共有
- 人が集い、過ごす風景の再生
- 内水対策、排水対策の推進・促進
- 急傾斜地対策
- ※流域治水プロジェクト

各地区の懇談会での主なトピック

中心市街地、青井地区、麓・老神地区については、裏面をご覧ください。

大柿地区

中神町大柿、小柿

大柿地区は、今次豪雨による被災状況を踏まえ、住まいの再建やコミュニティの再生、農地の復旧、避難路・避難所の見直し等の取組を中心に検討を進めています。また、流域治水（遊水地）については、国の検討状況を確認しています。

- 安全性を高める住まいの再建方法の誘導
- 農地復旧・農業の継続
- 安全な避難路の整備
- 避難所の見直し・機能拡充
- 防災情報の伝達機能強化
- 地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- 治水対策（遊水地）に関する情報提供

中神地区

中神町城本、段、馬場、下原田町瓜生田

中神地区は、今次豪雨による被災状況を踏まえ、住まいの再建やコミュニティの再生、農地の復旧、避難路・避難所の見直し等の取組を中心に検討を進めています。また、流域治水（遊水地）については、国の検討状況を確認しています。

- 安全性を高める建て方の誘導
- 農地復旧・農業の継続
- 安全な避難路の整備
- 避難所の見直し・機能拡充
- 防災情報の伝達機能強化
- 地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- 自助共助の避難体制の構築
- 治水対策（遊水地）に関する情報提供

温泉下林地区

下林町、中林町、温泉町

温泉下林地区は、球磨川・万江川や小河川による浸水の危険性に備えて、「早めの避難」など避難方法の見直し、コミュニティの核となる場の再生等の取組を中心に検討を進めています。

- 安全性を高める建て方の誘導
- コミュニティの核としての集会所の再建
- 観光資源としての温泉の復活
- 農地の再生
- 村山台地への避難路の整備
- 安全な避難場所の整備
- 防災情報の伝達機能強化
- 地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- 内水対策の推進・促進

薩摩瀬地区

宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、下城本町

薩摩瀬地区は、球磨川や御溝川による浸水の危険性があるため、避難方法の見直しや地区内での緊急避難場所の確保、住まいの再建における安全性の向上等の取組を中心に検討を進めています。

- 安全性を高める建て方の誘導
- 公民館の再建
- 地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- 防災情報の伝達機能強化
- 緊急避難場所（災害公営住宅兼避難ビル等）の整備
- 自助共助の避難体制の構築
- 継続的・定期的な避難訓練
- 内水対策の推進・促進

左岸地区

西間下町、矢黒町、下戸越町

左岸地区は、球磨川と支流、急傾斜地に挟まれており、浸水と土砂災害の危険性があるため、「早めの避難」の徹底や「安全な避難」を実現するために必要となる取組を中心に検討を進めています。

- 地区内の主要道路の整備（拡幅や急傾斜地対策）
- 堤防道路の避難路としての整備
- 地域性を踏まえた防災マップの作成
- 地域内への実績浸水深の表示
- 情報発信機能の強化
- 避難支援ツールの配備
- 効果的な避難訓練の実施
- 安全な避難場所、車での避難場所の確保
- 矢黒第二排水樋管周辺の浸水対策
- 西瀬コミュニティセンターの防災機能強化

麓・老神地区 復興まちづくりの方向(案) ~これまでの地区別懇談会意見を踏まえた方向(たたき台案)の整理

資料3

赤字：事務局側での記載事項

| 意見集約のキーワード (復興計画の3つの柱) | 地区の主な課題 (地区の復興まちづくりに向けた主な課題) | 取組み方針 (課題解決のための取組み方針の柱) | 具体的取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要 |
|---|--|--|--|
| <p>①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】</p> | <p><input type="checkbox"/> 浸水した家屋の片付け（公費解体）</p> <ul style="list-style-type: none"> 公費解体の順番待ちの状況。 地区内で被害の大きかった新町の今後が心配。 <p><input type="checkbox"/> 地域の高齢化、及び空洞化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が増えて、住民同士の付き合いが減少。 若い世代の住民が減少（南町） 空き家の増加 田町に旧商店街の古い町並みが残っている。 | <p><input type="checkbox"/> コミュニティの再生</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い世代をはじめとした新住民の受け入れ マンション居住者の共益費に区費を含める <p>※法的な確認は必要</p> | <p><input type="checkbox"/> コミュニティの再生</p> <ul style="list-style-type: none"> 古民家をリノベーションして、若い世代の入居・転入促進 南寺町・新町の統合の検討 麓町・南寺町の交流促進 |
| <p>②力強い地域経済の再生 【生業再建】</p> | <p><input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 城址、人吉城歴史資料館の使い勝手が悪い。 人吉の歴史を市民・観光客が学ぶ場所が必要。 | <p><input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 城址公園、麓地区のイベント会場としての活用。 歴史資料館収蔵品の浸からない場所への移動・保存 | <p><input type="checkbox"/> 人吉城址周辺の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史資料館を観光情報センターとして再利用 城址公園（人吉市市役所跡地、含）の整備及び利用促進 歴史館の入場料無料化（市民のみ対象/歴史を知る機会の増加） |
| <p>③災害に負けないまち づくり 【避難対策】</p> | <p><input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定避難所の保健センターまでの道が狭く、胸川沿いに立地しているため危険。 胸川東側の地区は橋を渡るのが危険。東側で避難所の確保が必要。 新町町内会館が浸水した。今後避難所として利用できない。 <p><input type="checkbox"/> 避難誘導體制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 発災状況の確認が遅れて逃げ遅れが発生。 町内会長だけが住民の避難誘導の役割を担うのは負担が大きい。 防災に関わる町内会長の業務引継ぎが不十分。 高齢者の逃げる手段、見守りの体制が十分でない。 <p><input type="checkbox"/> 町内の共助の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去も浸水した記録がないので、自主防災組織を立ち上げていない。 災害発生時、世帯で電気・水道の有無が分かれた。 <p><input type="checkbox"/> 早期の避難情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難情報が聞き取り難い。 <p><input type="checkbox"/> 本川と支川の合流部の氾濫</p> <ul style="list-style-type: none"> 胸川から本川に流れ込みづらい。バックウォーターの発生。 | <p><input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 胸川西岸は第一中学校を避難所として利用するため、今後協定等を検討（将来的に新庁舎、医療センターや裁判所の垂直避難）。 胸川東側は相良神社、林鹿寺、東林寺を避難所として利用するため、今後協定等を検討。 麓地区の公民館設置の検討（管理等が大変なので設置しない方向） <p><input type="checkbox"/> 避難誘導體制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会長の負担を軽減・分散する必要がある。※町会長が被災者になる場合も想定。 町会長の引継ぎ時に、消防団が同席する等して防災の業務引継ぎを強化。 高齢者・要支援者の連絡網・マップの作成。 市の出前講座を活用した防災への認識・体制の強化。 <p><input type="checkbox"/> 町内の共助の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接する町内会と共同で自主防災組織の立ち上げ、及び活動の充実。 町内住民の互助体制の構築。 <p><input type="checkbox"/> 早期の避難情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話/エリアメールを使った早期避難情報の発信。 行政・消防による「空振り覚悟」の避難情報の発信。 <p><input type="checkbox"/> 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下</p> | <p><input type="checkbox"/> 安全な避難場所・避難ルートの確保・確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 【胸川西岸】第一中学校を利用。国の出先機関の垂直避難の協定締結。 【胸川東側】相良神社、林鹿寺、東林寺の自主避難所として協定締結。 ※林鹿寺は麓町・田町の自主避難所に指定済み 寺社の避難所利用に関わる協定締結に向けた支援 駐車場の整備・確保 <p><input type="checkbox"/> 地域性を踏まえた防災マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災まち歩きによる、危険個所の確認。及び各町内の詳細な防災マップの作成 <p><input type="checkbox"/> 防災拠点等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 人吉医療センター、新市役所庁舎を防災拠点として指定 新町町内会館周辺に避難タワーの設置 老神排水樋門の機能強化 <p><input type="checkbox"/> 防災意識の醸成、体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の立ち上げ、地区防災計画の策定（役割の分散化 他） 実践的な避難訓練の実施。 災害時の女性部の活動強化 災害時の住民間の支援体制の構築 <p>●参考：県内の活発な自主防災組織の取組みに関わる勉強会</p> <p><input type="checkbox"/> 情報発信機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。 支流（胸川 他）の出水状況をきめ細かく情報提供する機能の強化。 <p><input type="checkbox"/> 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> 流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等 |

麓・老神地区 復興まちづくりの方向(案) イメージ図





築130年の古民家を改装したホテル

NIPPONIA甲佐 疏水の郷

全国で古民家再生事業を手掛ける企業「NOTE」(兵庫県)と共同で整備。NIPPONIAの名を冠した古民家再生ホテルは全国で21カ所目。農林水産省の補助を活用し、空き家になっていた木造2階建ての店舗兼住宅を改装。

代表「地域と一緒に盛り上がる手段としてホテルを活用し、宿泊客にまた訪れたい、住んでみたい町と思ってもらえるようにしたい」

▼活動趣旨

「甲佐町で、子どもを育てたい、暮らしたいと思ってもらえるようなひとづくり、まちづくりの推進」

甲佐町内外の様々なひとや団体との連携のもと、甲佐の自然、伝統、食、街並みなど、すべての地域資源の魅力を発掘、または向上させ、甲佐町の交流人口の増加による地域経済の循環を通じた持続可能なまちづくりを目指す。

参照：<https://nipponiakosa.jp/>

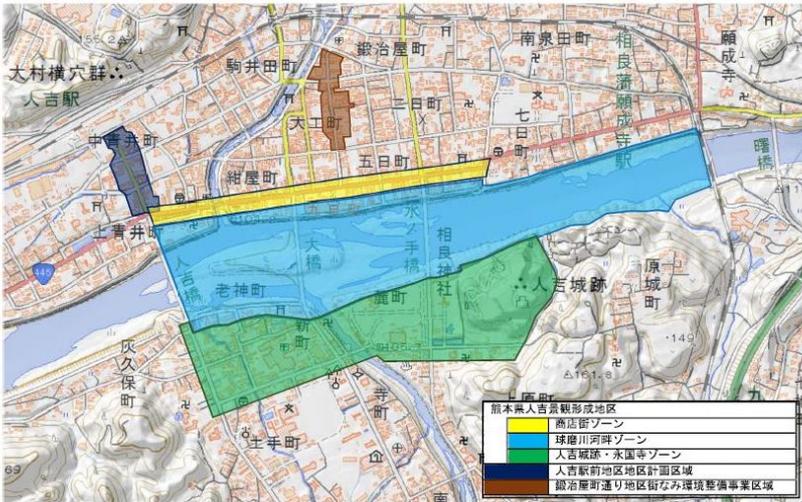


海見えるゲストハウス

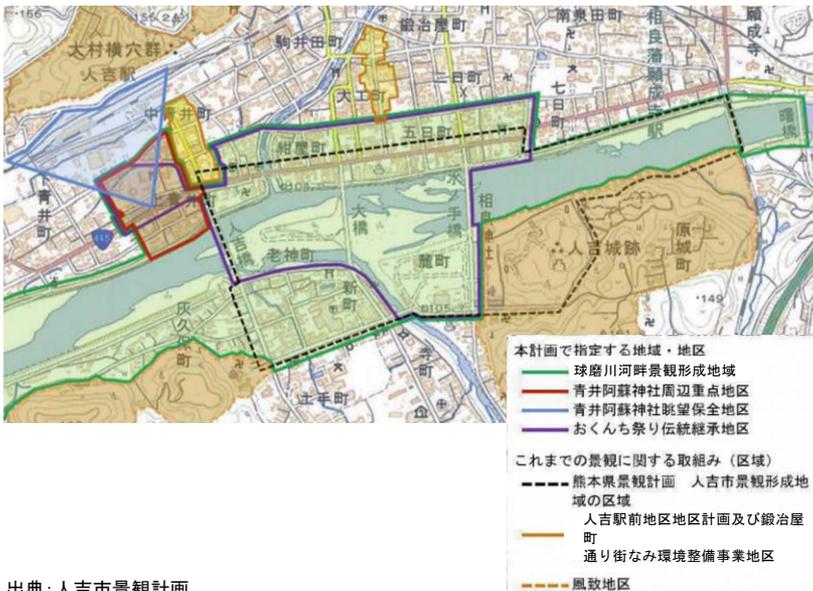
- 海水浴場に面する築100年以上を経過した民家を改装し、長期滞在も可能なゲストハウス（計2軒）を運営。
- オーナーは孫ターン。
- 若い世代の旅行客が使いやすいように、台所、トイレ、風呂場を現代的に改装したものの、寝室やリビング、外観は当時の趣を残した改装した。

熊本県景観計画及び人吉市景観計画における麓・老神地区に関わる景観形成の方針

熊本県景観計画（人吉景観形成地区）



人吉市景観計画（重点的に早急に取り組む特定地域・地区の指定）



出典：人吉市景観計画

熊本県景観計画 景観形成地区の基本方針（抜粋）

人吉城跡・永国寺ゾーン

- ・街並みは、城下町の情景を伝える落ち着いた秩序あるものとなるよう努める。
- ・建築物は、城下町の歴史と文化的雰囲気を引き立たせる落ち着いたものとする。
- ・敷地の周囲は、生垣や石垣など歴史的な佇まいの要素を取り入れた修景に努める。

球磨川河畔ゾーン

- ・街並みは、人吉の原風景といえる緑に囲まれ、悠々とした水の流れをもつ河畔風景に調和したものとなるよう努める。
- ・建築物は、水と緑の河畔風景に調和しつつ、両岸からの視線に配慮し、川へ顔を向けたものとする。
- ・敷地は、球磨川の背景となる山並みの緑につなぐ緑化を図る。

商店街ゾーン

- ・街並みは、都市の顔となるシンボルストリートにふさわしい賑わいと活気を持ったものとなるよう努める。
- ・建築物は、通りの賑わいを高め、美しく風格ある街並みを形成するものとする。

人吉市景観計画 球磨川河畔景観形成地域の方針（抜粋）

| | | |
|-------------------------------|---|--|
| <p>方針① 眺望への配慮</p> | <p>○球磨川に架かる橋からの山並みへの眺望は人吉特有の景観であることから、建物の高さや形態は山の稜線の連続性を分断しないように配慮します。</p> <p>○人吉城跡、村山台地、蓬萊山から市街地を眺められることを意識して屋根や屋上、外壁のデザインに配慮します。</p> |  |
| <p>方針② 歴史・文化への敬意</p> | <p>○本区域はおくんち祭り、お城祭り、花火大会などの舞台であることから、伝統行事の歳時記的景観を守るために、のぼり旗や祭りの衣装に用いられる色彩の使用をできる限り控えます。</p> <p>○町湯（温泉）界隈には散策に適した路地があり、町湯の施設と共に維持・保全に努めます。</p> |  |
| <p>方針③ 地域の生産技術や職能への敬意</p> | <p>○区域内には伝統的な職人町や職人の工房があることから、職人の技術や助言を積極的に活かします。建築物や工作物には木材や石、鉄などの自然素材をできる限り多用します。</p> | |
| <p>方針④ 歩いて楽しい風景づくり</p> | <p>○公共の場から見えるスペースや、交差点の角地、橋詰めには、歩行者が歩いて楽しい空間を創出するため、交通安全に支障のない範囲で植樹や緑化を行います。</p> |  |

人吉市景観計画 おくんち祭り伝統継承地区の方針（抜粋）

- | | |
|------------|---|
| <p>方針①</p> | <p>のぼり旗や祭りの衣装に用いられる色彩と調和しない色の使用をできる限り控えます。</p> |
| <p>方針②</p> | <p>神幸行列のコース上にある施設は、その形状や色彩が祭りのしきたりや精神性を阻害しないものとします。</p> |



(祭りの風景から抽出したおくんち祭りの色彩)



(使用を控えるべき色として導き出した代表色)



史跡人吉城整備基本計画

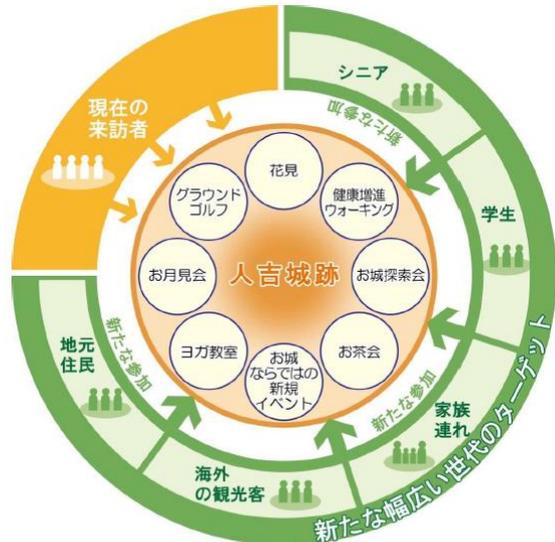


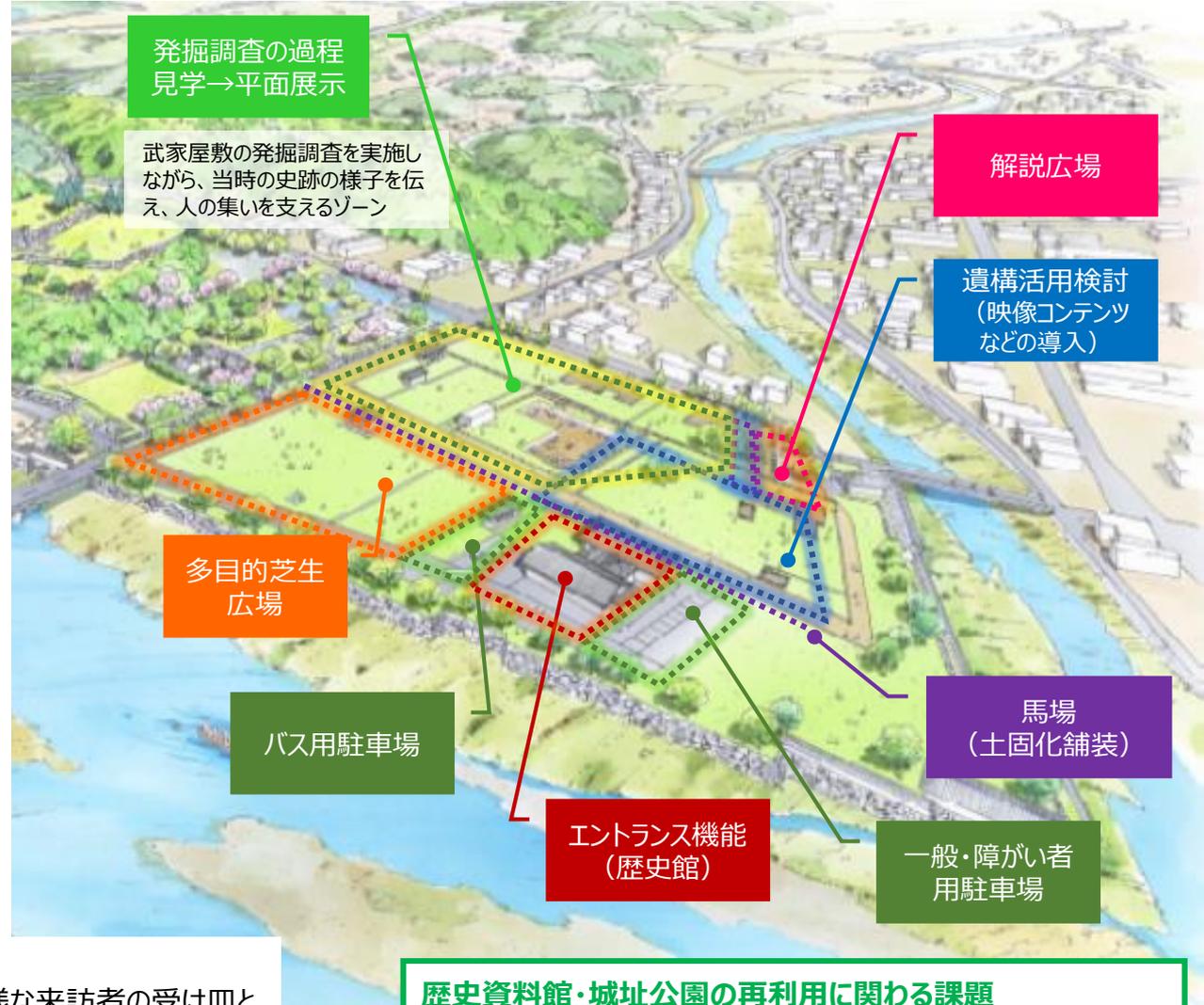
図5-21 想定するターゲットやイベント・利用プログラムのイメージ

イベント・利用プログラム設定

- 幅広い世代の市民・市内外からの多様な来訪者の利用促進につながる企画運営
- これまでのイベント等に加え、日常的に気軽に足を運べるような身近なものや遺跡の空間を活用したもの、季節感あふれる憩いの空間利用、球磨川を活用した渡し舟などの不定期イベント等への活用

西外曲輪の整備方針

- 史跡整備、公園的利用の観点から、多様な来訪者の受け皿となる空間整備を行う
→レンタサイクルや舟運によるアクセス
- 発掘された石積みなどは、露出展示など遺構の価値を伝える
- 武家屋敷の敷地割は統一した遺構表示を行う 他



歴史資料館・城址公園の再利用に関わる課題

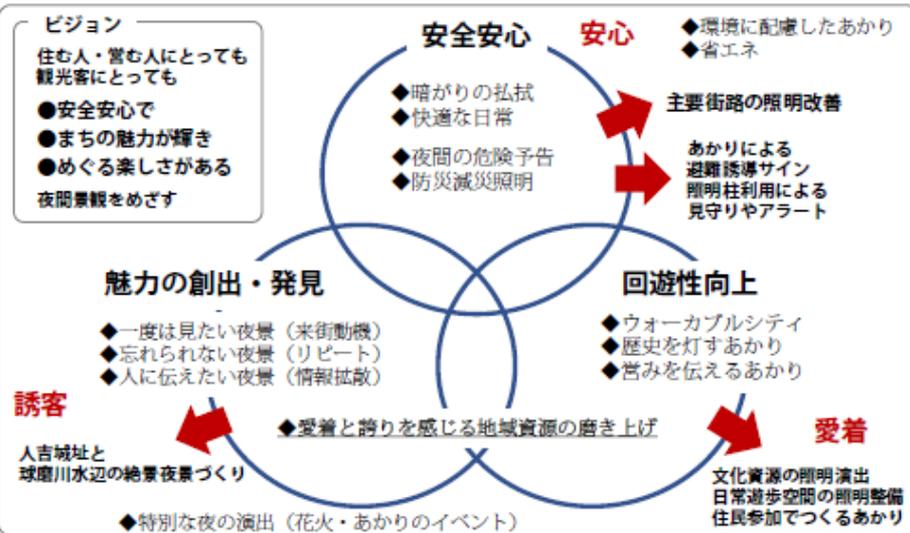
- 歴史館の資料等をどこに移動させるか
- 歴史館に持たせたい機能（観光情報、伝統工芸体験）
- 城址公園の整備（運動器具、芝生、飲食店）

人吉市老神・麓地区の方向 イメージ図（賑わい・歴史・文化）

資料4



「人吉ひかりの復興計画」基本方針



人吉ひかりの復興計画

地域の観光コンセプトである「相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本で最も豊かな隠れ里か-人吉球磨～」にふさわしい、観光地としての公共夜間景観の実現イメージを、地域の事業者と生活者の意思として提案すると同時に、公民連携によって今後目指していきたい人吉温泉ならではのあかりによるブランド価値向上策を提案する